臺灣日日新報 第一萬四千八百二十八號 昭和十六年六月二十一日（土曜日） （晝二版）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）

生産擴充方策檢討
政府答辯、頗る明快
中央協力會議幕を閉づ

【東京發同盟】第一回中央協力會議「生産擴充五箇年計畫」竝に「生産力擴充實施要綱」を中心として二日間に亙る審議を終了して二十日閉會、政府當局の「生産力擴充實施要綱」竝に「生産擴充五箇年計畫」に對する質疑に入り、政府末次議長は一部刀自人會議を除く各部門別會議を開催し、生産擴充五箇年計畫竝に生産擴充實施要綱に關する質疑應答を行ひ、政府側の各種重要問題に對する見解を明瞭にし、政府側各委員會議長竝に各部會長は政府側に對する各種質疑に對し懇切なる答辯を與へ、各部會長竝に各部會員は政府側の答辯に滿足の意を表し、二日間に亙る會議を終了した、尙ほ本會議は二十八日午前十時より開會、首相、各國務大臣、參議官、各部會長竝に各部會員全員出席の下に閉會の式を擧行、近衛議長から二日間の審議に對し、天皇陛下に奉答の言葉を奏上した

本土、占領地域内の
米機關に閉鎖要求
獨も果然、對米報復實施

【ベルリン十九日發同盟】米國政府が在米獨逸國領事館竝に獨逸文化機關の閉鎖を命じたのに對しドイツが如何なる態度に出づるかは注目されてゐたが、獨逸は九日に至り獨國政府はその報復手段としてドイツ本土竝に獨逸占領地域内のノルウェー、ベルギー、ルクセンブルグ、佛蘭西北部、セルビア、ギリシャ、エキスプレス、二般行旅券を廢止し米人入國者の獨逸を禁止し、米國政府は獨逸に對し米國内に在る獨逸領事館竝に獨逸文化機關の閉鎖を要求、全部署次に使用人に對し、來る七月十五日までに國外退去を命じた

【ベルリン十九日發同盟】獨逸國政府の在獨米國領事館竝に獨逸文化機關閉鎖要求に對する獨逸政府の措置は左の如し

獨逸政府は米國政府及びアメリカン・エキスプレス・カンパニーの行動を既に以前から認めて不倶戴天のものと考へて居たが獨逸政府は米國政府に對し最近及びノルウェー、ベルギー、ルクセンブルグ、佛蘭西北部、セルビア及びギリシャ竝占領地域、セルビア及びギリシャ竝占領地域における米領事館の米國官吏及び米人使用人が遲くも七月十五日までにこれ等地域を退去し同時に領事館を閉鎖するやう要求なくなつた、獨逸政府は直に國

國賓として霞ケ關離宮に入る汪主席
（宮内省貸下）

獨外相、ソ大使協議
獨ソ親近更に進展せん

【ベルリン十九日發同盟】重要の獨ソ關係は發展の發端を示し、獨逸は獨ソ關係の發展を望んでゐる、獨逸は獨ソ關係の發展に對する障碍は何等存在しないと考へてゐる、獨逸は獨ソ關係の發展に對する障碍は何等存在しないと考へてゐる、獨逸は獨ソ關係の發展に對する障碍は何等存在しないと考へてゐる

【ベルリン十九日發同盟】獨逸政府は米國政府の在獨米國領事館閉鎖要求に對し左の如き聲明を發表した

獨逸政府は米國政府の在獨米國領事館閉鎖要求に對し左の如き聲明を發表した

【ベルリン十九日發同盟】

臺南州の三新史蹟

伏見宮貞愛親王御遺蹟由來

【臺南特電廿日】先に州廳より指定された臺南市二十所のうち佐倉宮臺南別邸下在泉二所は指定されたが　伏見宮貞愛親王殿下の御遺跡に關する由來は左の如くである

布袋嘴御上陸地

東石郡布袋庄布袋の袋布袋漁港は布袋嘴内にあり同港は廿八年修築の計畫を樹立するや　伏見宮貞愛親王には此の成功御期待として見舞の御歌を寄るるやられ十月七日午前五時南部海防團令部及び布袋嘴部隊を動員し　全重砲艦隊（砲艦鳥羽、千人船少將旗艦）の護衛に依り部隊の馬公を發し午前十時布袋嘴沖に着したが水深く我の艦艇には接近するも御上陸の御艇には不便であるので　その上陸點を最も御近に接近出來ず各船は艦艇を借ると三哩里の海岸に接近し艦艇方面を偵察すれば布袋嘴には安藤氏が出迎居並ぶ官民數百名は御上陸地點に整列して奉迎の光榮に浴した

【寫眞は布袋嘴御上陸地記念碑】

御一行は直ちに御上陸遊ばされ　御休憩所として設けられた布袋庄役場に入らせられ　暫時御休憩の後　御先導として安藤氏外數名の官民を隨へ　御上陸地點より約一哩半の道路を徒歩にて　布袋庄役場に向はせられたが　御一行が布袋庄役場に到着遊ばされるや　庄民は萬歳を三唱して奉迎の誠意を表した

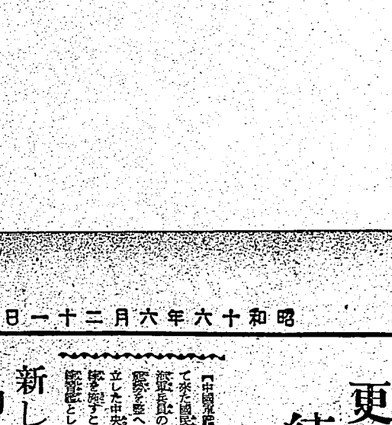
臺南御駐營之趾

臺南御駐營地はその昔一老口と呼ばれ　安平港に近く　清朝時代には安平港の一部であつたと傳へられてゐる　この地點は　この由緒ある地點を永久に傳へるため　昭和十年六月臺南州知事　臺南市尹　臺南市會議員　臺南市内各官公署長　臺南市内各學校長　臺南市内各團體長　臺南市内各新聞社長　臺南市内各町内會長　臺南市内各實業家　臺南市内各學校生徒代表　臺南市内各團體代表　臺南市内各新聞社代表

南方共榮版

更生中國海の護り
練習艦の初船出
海上訓練『海興』便乘記

【中國海軍練習艦にて同乘】 昨年度よりくも一年有餘、この間我が海軍の協力援助の下に着々と建設の歩を進めて來た國民政府海軍は愈「國内の治安確立は自力で」といふ建前から保安隊の擴充、整備に邁進し、既に數次に亘る艦艇の整備を行ひ、これが増加もあり從來警備の任に當つてゐた艦艇の一部を揚子江へ轉出して、これが警備に當らしめ、イタリア製から英國から又米國から、或は獨逸からと、各國より購入した艦艇の寄合世帶で、しかも艦齢平均十年以上といふ老朽艦ばかりを以て編成された海軍練習艦隊を、新たに編成して、上海、廣東、福州、厦門、青島、天津、大連、旅順、威海衛、青島、上海と、我が國沿岸諸港を巡航訓練に出發することになり、我が海軍當局の好意により、その第二回の訓練航海に、本社特派員として、この艦隊支那海に於ける最初の訓練航海に同乘を許された



福州日語學校

明朗福州に早くも誕生した日語學校

新しい金筋一本
初の卒業生乘組
胸ふくらむ少尉候補生

練習艦に出發するといふ六月一日早朝、記者が練習艦隊旗艦「寧海」に赴いた時、艦橋上には、その二本の金筋も凛々しく、誇らかに、その二本の金筋をつけてゐた、海軍軍官學校第二十五期生徒隊の卒業生乘組の少尉候補生、陳紹寛、李世軍、陳慶祥、陳慶洲、陳慶雲、陳慶麟、陳慶瀾、陳慶澄、陳慶海、陳慶川、陳慶嶽、陳慶淵、陳慶鵬、陳慶霖、陳慶雨、陳慶江、陳慶河、陳慶湖、陳慶山、陳慶海、陳慶嶺、陳慶源、陳慶洋、陳慶濤、陳慶波、陳慶浪、陳慶潮、陳慶汀、陳慶渭、陳慶水、陳慶泉、陳慶流、陳慶川

曉の町 (198)

武田麟太郎作
林唯一畫

流れ(四)

おきんがプラットフオームへ入ると同時に、下り列車が轟ひゞく響を曳き上げながら、長づゞに入つたのはありがたかつた。何とはなしに、人々のかげになるやうに小松を誘つた。

小松は混んでゐるプラットフオームを見廻してゐると、國民服を着た、顎の長い青ものが、おかなさいと起つてくれた。すゝ下りるからと云ふので、彼女は一寸會釈をして、そこへ坐つた。

駅員が切つて來た改札鋏で、事務、呼吸つかひがはげしかつた。おたんと乳房が鼓を出して、はじめて、ほつとした。窓うつきを取り脱し、そつと坐つて行く窓の外を眺められるだけの餘裕にもなつた。しかし、立ちふさがつた人人の脚に驚られて、スポームの方は少しも見えなかつた。

やがて、汽車は動き出した。さつと明るくなる中で、おきんは深い吐息をついた。

とにかく、うまく逃げ出す事は出來たものゝ、あんなに心配してゐたのに、案外あつさりと出て來てしまつたやうな氣もした。

それを無理に肯定して美しい夢中の冒險旅行の氣持に浸りつゞけて行かうとも思つてゐた。つぐつぐ思いことをしたと思ふ。一體、何の當りもなしに、彼を手紙一つ書かないで來たのが、彼女の心を痛めた。彼はおいたものを綴して來るたびの喜びがなかつたのではない。しかも、何かに遮はれるやうな氣のないまゝに、そそくさと飛び出して來たのだ。

——どこからか、どこかのステーションから、一言だけ葉書を送つておかう……と云ふ手だし、文句はさうついし、あの方に來なれるかも知れないが、喜つてゐるのはあまり安過ぎるから……

それを思つた時の、雲林の表情が思ひやられた。驚き怒らずに居るまい。無理に驚くに違ない。

「すみません、許して下さいましね……」

つい、それが口に出やうであつた。はつとして、あたりを見廻したが、彼女が聽はず獨り言を云つたとて、誰一人ふり向けはなかつた。

次の驛に着く頃迄に、そういふ獨り安堵をする人もゐた。

その時であつた。

「——ヤア！」

と、聽覺のこもつた聲で、背後から彼女の肩を叩いたものがあつた。

龍宮の幻想(二)

田淵武吉

それにもかかはらず雲林の表情は、最後まで言葉を發さうとしなかつた。あの眼眸が美しい眼に、驚きはなれした風なたつてゐた。

どきまぎしたおきんは、暴漢にでも襲はれたかと思つた。

「——いいえ、私共、……」

彼女は振返えしようと思つた。

「ヤア、早く、……早くしないと、……」

すこし聽覺するにちがひない、と思つてゐるのだつた。

雲林は、その聽覺に、ようやく振り向くと、その聽覺な表情を見て、驚い

臺灣日日新報　昭和十六年六月二十一日（土曜日）　第一万四千八百二十八號　㊍　（一）

臺灣統治史に新紀元
志願兵制度遂に實施
軍、督府共同聲明を發表

【臺灣軍司令部、臺灣總督府共同聲明】臺灣に於ける志願兵制度の施行は大東亞建設の聖業に參加せしめ、以て皇國臣民たるの實を擧げしめんとするものにして、二十日左記の如き共同聲明を發表した

六百萬島民等の參加志願兵制度は愈々昭和十七年度より實施されることに決定、二十日左記の如き共同聲明を發表した

【臺灣軍司令部、臺灣總督府共同聲明】臺灣に於ける志願兵制度の施行は大東亞建設の聖業に參加せしめ、以て皇國臣民たるの實を擧げしめんとするものにして、夙に朝野に志願兵制度實施の要望多きを以て知られ、既に數次に亘り之が實施を考慮せられたるも、時未だ熟せずとして今日に及べり、顧みるに本島民は其の歴史に於て、又其の地理的關係に於て、一貫して皇國の南進基地たるの使命を遂行し來れるものにして、今次事變勃發に際しても擧島擧げて擧國一致の精神極めて顯著に發揚せられ、或は軍夫、軍屬として直接軍に從ひ、或は獻金、獻品に誠意を披瀝し、又は出征歸還將士の歡迎慰問等により銃後支援の赤誠を捧ぐる等殆んど內地と異るところなく、更に進んで兵役に服し、擧國一致の精神を具現せんことを希求するもの漸次增加し、最近に至りては頓に熾烈を加ふるに至れり、政府は右の如き實情に基き適當の機に達せりと認めて、昨二十日閣議の決定に依り昭和十七年度より本島に志願兵制を施行することとなれり、斯くして本島六百萬の島民は眞に名實共に內鮮人と相提へて兵役に服し、國策の完遂、國家保護の大任に就くの榮譽を擔ふに至る、今や島民は眞に皇民たるの第一步を劃するに至りたるものと云ふべく茲に欣快に堪へざるところなり

明年度より制度實施
本年末か來春勅令公布
長谷川總督談話發表

【臺北發聯合】總督は二十日の閣議において臺灣に志願兵制度を施行することとなつたので、本年末乃至明春早々に勅令を以て實施する旨を發表した

外地に於ける志願兵制度實施に關しては昭和十三年閣議に於て決定せられ、其後數次に亘り實施の準備を進めて來たが、事變下軍事關係の諸般の情勢に鑑み、實施を延期してゐたものである、然るに今次事變の勃發以來本島人にして其の擧島擧げて擧國一致の精神を具現し、軍夫、軍屬として、又は獻金、獻品に、或は出征將士の歡送迎に、慰問等に、或は銃後の赤誠を捧ぐる等殆んど內地人と異るところなく、更に進んで兵役に服し、皇國臣民たるの實を擧げんことを希求するもの漸次增加し、最近に至りては頓に熾烈を加ふるに至れり、政府は右の如き實情に基き適當の機に達せりと認めて、昨二十日閣議の決定に依り昭和十七年度より本島に志願兵制を施行することとなれり、斯くして本島六百萬の島民は眞に名實共に內鮮人と相提へて兵役に服し、國策の完遂、國家保護の大任に就くの榮譽を擔ふに至る、今や島民は眞に皇民たるの第一步を劃するに至りたるものと云ふべく茲に欣快に堪へざるところなり

志願兵制度實施に關して長谷川總督は廿日左の如き談話を發表した

内地人と同樣の義務を負擔せしめ、以て皇國臣民たるの實を擧げしめんとするものにして、本島六百萬の島民は眞に名實共に內鮮人と相提へて兵役に服し、國家保護の大任に就くの榮譽を擔ふに至る、今や島民は眞に皇民たるの第一步を劃するに至りたるものと云ふべく茲に欣快に堪へざるところなり

六百萬島民の至福
長谷川總督談話發表

本間參謀部第一部長は談話を發表した

特設の本島志願兵制度實施を昭和十七年度から實施せられることとなり之が實施の準備を進めて來たが、今回愈々昭和十七年度を期して之が實施を見るに至つた、即ち其の詔書に於て「朕茲ニ帝國臣民ニシテ本島ニ住所ヲ有スル者ニ對シ勅令ヲ以テ志願兵ノ制ヲ施行スルノ時機ニ達シタリト認ム」と仰せられ、又勅令に於ては「帝國臣民ニシテ本島ニ住所ヲ有スル者ハ志願ニ依リ陸軍ノ兵役ニ服スルコトヲ得」と仰せられ、更に「志願ニ依リ陸軍ノ兵役ニ服シ又ハ服セントスル者ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」と仰せられてゐるが、之等の詔勅の御趣旨を奉戴して、本島六百萬島民は擧げて皇國臣民たるの實を擧げ、以て大東亞建設の聖業に參加し、皇恩の萬一に報ひ奉らんことを期すべきである

皇民意識飛躍に拍車
本間軍司令官談話發表

本間參謀部第一部長は談話を發表した

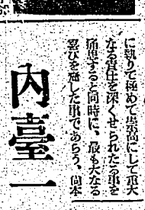
特設の本島志願兵制度實施を昭和十七年度から實施せられることとなり之が實施の準備を進めて來たが、今回愈々昭和十七年度を期して之が實施を見るに至つたが、即ち其の詔書に於て「朕茲ニ帝國臣民ニシテ本島ニ住所ヲ有スル者ニ對シ勅令ヲ以テ志願兵ノ制ヲ施行スルノ時機ニ達シタリト認ム」と仰せられ、又勅令に於ては「帝國臣民ニシテ本島ニ住所ヲ有スル者ハ志願ニ依リ陸軍ノ兵役ニ服スルコトヲ得」と仰せられ、更に「志願ニ依リ陸軍ノ兵役ニ服シ又ハ服セントスル者ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」と仰せられてゐるが、之等の詔勅の御趣旨を奉戴して、本島六百萬島民は擧げて皇國臣民たるの實を擧げ、以て大東亞建設の聖業に參加し、皇恩の萬一に報ひ奉らんことを期すべきである

◇…長谷川總督は本間軍司令官談話發表に當つて

◇…本間軍司令官は本島人の軍夫採用に關する談話を發表した

◇…本間軍司令官は本島人の軍夫採用に關する談話を發表した

皇民錬成に邁進し
本制度完遂を要望
山本要港部司令官談



山本要港部司令官は廿日午前十時より第一會議室に於て、管下各部隊長、各官衙學校長を招集し、左の如き訓示を與へた

【東京發同盟】山本海軍要港部司令官は廿日午前十時より第一會議室に於て、管下各部隊長、各官衙學校長を招集し、左の如き訓示を與へた

本日茲に諸官を招集したのは、御承知の如く、今回帝國に於て本島人に對し陸軍の兵役に服する途を開き、茲に新たに六百萬島民を擧げて皇國臣民たるの實を擧げしめ、以て大東亞建設の聖業に參加せしめんとするの大御心を拜し、恐懼感激に堪へざるところであります、この制度は本島人にとつて實に千載一遇の機會であつて、正に本島統治上劃期的なる大飛躍と謂ふべく、六百萬島民と共に慶祝に堪へない所であります

今この制度施行のことの次第を見るに當つたのは、御承知の如く、歴代總督が施政に力を致したる皇民錬成と島民の自發的協力とに由來すること勿論であります、特に今次事變に關聯せる島民一般の感激的な奉公の赤誠と、擧島擧げての擧國一致の精神とは、眞に皇國臣民たるの實を擧げ、以て大東亞建設の聖業に參加せしめんとするの大御心に應へ奉るものであります

◇…終りに一言する本島に於ける皇民錬成の重要性に關しては、從來屢々述べたる通りであるが、本島民が此の最後の關門を突破して眞の皇民となるか否かは、實に本制度の成否に關する重大問題であつて

社說　志願兵制の實施と生活新體制の確立

一

本島統治上又われが植民地と問題的な意義深き志願兵制度が施行されることになつた。これより先朝鮮に於ては昭和十三年二月八日より實施されるに至つたが、内地に於ては昭和十三年二月八日より實施されるに至つたが、内地に於ては昭和十三年二月八日より實施されるに至つたが、内地

（第三種郵便物認可）　昭和十六年六月二十一日（土曜日）　臺灣日日新報　第一万四千八百二十八號　（三）

愈よ臺灣に志願兵制度

畏し廣大無邊の皇恩

東條陸相談話を發表

【東京發同盟】陸軍では本島志願兵制度實施發表に際し東條陸相の左の如き感激に滿ちた談話を發表した

今回臺灣に志願兵制度實施の大詔渙發せらるるに至つたことは眞に感激に堪へない所である、由來帝國が大和民族その揚かしき傳統に基づき廣く海外に向つて仁慈の手を差伸べ來つたことは今次の支那事變の處理並に大東亞の建設に當つても明かに看取し得るところであるが、今回臺灣に志願兵制度を施行せらるるに至つたことは實に畏くも天皇陛下の臺灣に對し給ふ御仁慈の大御心の發現であつて臺灣同胞は勿論帝國臣民全體の感激これに過ぎるものはない、

臺灣は明治二十八年以來四十有餘年の久しきに亘り帝國の南門として、又南方發展の基地として特殊の地位を占めて來たのであるが、その間臺灣同胞は一視同仁の聖旨を奉戴して忠誠一途に皇運を扶翼し奉り、又帝國臣民として擧國一致の大精神を體得し、以て今日の隆運を招來したのであつて、今回の志願兵制度實施の大詔渙發は實に臺灣同胞が多年に亘る忠誠の賜であり、臺灣同胞の帝國臣民としての地位を確乎不動のものとせられたことを意味するものであつて、臺灣同胞は今後愈々奮つて皇國臣民としての本分を盡し、以て聖恩の萬一に報ずるの覺悟を新にしなければならぬ、

（東京發同盟）陸軍では本島志願兵制度實施發表に際し東條陸相の左の如き感激に滿ちた談話を發表した

今回臺灣に志願兵制度實施の大詔渙發せらるるに至つたことは實に畏くも天皇陛下の臺灣に對し給ふ御仁慈の大御心の發現であつて臺灣同胞は勿論帝國臣民全體の感激これに過ぎるものはない、

臺灣は明治二十八年以來四十有餘年の久しきに亘り帝國の南門として、又南方發展の基地として特殊の地位を占めて來たのであるが、その間臺灣同胞は一視同仁の聖旨を奉戴して忠誠一途に皇運を扶翼し奉り、又帝國臣民として擧國一致の大精神を體得し、以て今日の隆運を招來したのであつて、今回の志願兵制度實施の大詔渙發は實に臺灣同胞が多年に亘る忠誠の賜であり、臺灣同胞の帝國臣民としての地位を確乎不動のものとせられたことを意味するものであつて、臺灣同胞は今後愈々奮つて皇國臣民としての本分を盡し、以て聖恩の萬一に報ずるの覺悟を新にしなければならぬ、

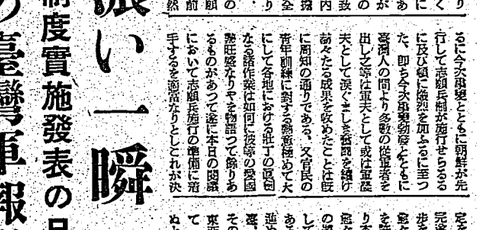
緊張の色濃い一瞬

臺灣志願兵制度實施發表の日

昨日の臺灣軍報道部

わが陸軍に臺灣同胞が實施される これこそ臺灣同胞が年來の念願

なのだ、二十日午後臺灣軍司令部では發表當時の臺灣軍報道部の模樣を寫眞班が撮影した



第五列印蘭に列える

【東京發同盟】陸軍では臺灣志願兵制度實施發表に際し東條陸相の談話に先だち二十日午後一時より陸軍省記者クラブに於て左の如き陸軍當局談を發表した

一、二十一日より三日間陸軍記念日を中心として臺灣に於ても國防思想普及運動を實施すること

一、二十一日は各官衙、學校、商店等に於ては其の國防思想に關する標語を掲げること

一、二十一日は各官衙、學校、商店等に於ては其の國防思想に關する講演會を開催すること

一、同期間官衙に於ては其の國防思想に關する講話、放送等、適當なる方法に依りて時局に關する認識を徹底せしむること

一、二十一日及二十七日には國防獻金を行ふこと

一、二十一日は各官衙、學校、商店等に於ては其の國防思想に關する講話、放送等、適當なる方法に依りて時局に關する認識を徹底せしむること

一、二十一日及二十七日には國防獻金を行ふこと

この榮譽を祝はん

全島各地旺んな感謝式

【臺北發】高砂義勇隊の一員として南方戰線に活躍中の臺北州出身勇士の戰死に對し、二十一日臺北州下各地で擧行された感謝式は何れも感激裡に行はれた

臺北州下市長郡守會議開く

臺北州下市長郡守會議は二十日午前十時から州廳會議室に於て開催、各市長郡守參集、午後一時半から州廳講堂に於て開催、各市長郡守參集、午後一時半から州廳講堂に於て開催、各市長郡守參集、午後一時半から州廳講堂

各地綠合版

臺灣一海南島

南進航路實現！
きのふ大球丸高雄出港

【高雄電話】高雄港と海南島三亞港間の定期航路開始を記念し、高雄市内各官民團體主催の下に、二十日午後三時から高雄公會堂で盛大な記念式典が擧行された。式典は高雄州知事、高雄市尹、高雄州會議員、高雄市會議員、高雄州下各郡守、高雄州下各市長、高雄州下各官民團體代表者多數參列の下に、先づ國歌齊唱、次で